

授業方法について独自に工夫していること【創造科学系】

両方の授業において、自分の大学生時代に充実を感じた授業の方法上の「しかけ」を行うことを意識している。

- ・本時の到達目標の内容については、板書を計画している。
- ・学生との対話をいれることで理解度を確かめて、知識習得の前提となる事柄(背景、実情)についてアドリブであっても補足説明をしている。
- ・学ぶ内容が大切な理由について、知らないことが実践の質を低くしている例を紹介している。

- 体育科教育について学ぶのはこの機会だけであるので、できるだけ授業映像を活用して、日頃の体育授業づくりのイメージをもつことができるようにした。
- 小学校体育は、教科の中で唯一教科書のない教科であるので、できるだけ運動教材例を配布資料にて提示した。また、学習指導要領解説にある例示は、独特の運動教材名であるため、言葉だけでは理解しにくい。そのため、例示と整合性をもたせた図絵を整理した資料を配布した。
- 体育授業づくりで陥りやすい代表例を上げ、具体的な改善法とその理論的な背景を添えて説明するようにした。

独自かどうか分かりませんが、今回は「対話型」授業を目指し、発問と回答の繰り返しから、次の発問へというサイクルを継続するよう努めました。

本授業においては、小学校図画工作科の指導に必要な基礎的な技能を、演習を通して身につけることが主な目的です。受講生の学習内容の定着をはかるために、各回の授業での活動を省察する「授業シート」を活用しています。この「授業シート」を主な成績評価の資料としています。また、積極的にICTを活用し、授業内容に関する情報保障に努めています。

とりたてて新しい取り組みではありませんが、聞いているだけでは学生自身で考えることになかなかつながらないので、自分で調べる、グループで討論する、発表をする、という活動を積極的に取り入れるようにしています。

できるだけ学生の興味を引くように、実技と講義のバランスを考えてカリキュラムを作っている。また、学生が主体的に学ぶ姿勢を作れるよう、グループで行うような課題を多く取り入れている。

受講生たちが、教員になっていくことを考慮し、授業内容を工夫している。たとえば、制作の材料を、既製品を使うのではなく、材料(竹)の成り立ち、性質を理解するためにも自ら切り出して、適したサイズ等に加工し、それから制作させる。また、ただ制作するだけでなく、子どもたちの教材として取り入れた場合を想定し、留意することや気づきなどもレポートとして書いて提出するなど。

さまざまな素材による描画活動を、教える人の立場からそれぞれまとめることに重点を置いている。ファイリングした技法を、現場でも使ってもらいたい。

実技のため、教えるばかりではなく、学生たちから引き出すような工夫を行っている。苦手意識が大きい領域のため、まずは「楽しむ」こと、そして「指導する」ことに視点を置きながら進めた。

ピアノを弾く経験の有無で大きく差がでる科目です。初心者には基本的なこと、経験者にはより音楽的なことというように個々に応じた指導を心がけています。

前期の授業同様、なるべく実技(歌唱・演奏)の時間を増やす。アンサンブルにも、時間を使い、音楽の力と共に、学生同士のコミュニケーションの力も伸ばすようにする。

- ・学生が体験や活動をしたり、調べをもとに互いに学び合えるような方法を取り入れたりすることで、授業を受けているという感覚ではなく、自分たちが主体的に学んでいると思えるようにしたいと考えている。
- ・社会の流れに沿うように、なるべく新しい情報を提供し、職に就いて即役立つように考えている。
- ・毎時間の学びを多面的に評価できるようにしている。

小学校の教科教育であることを踏まえ、

- ・できるだけ教育現場に近い資料などを提示したり活用したりしている。
- ・小学校の授業で使用する内容から選択し、具体的な活動を通して指導法を身につけることができるようにしている。

特に低学年指導では体験的に学ぶことを意識的に行っている。

- ・小学校6年間を見据えて、各項目を段階や系統を意識した内容にしている。

おおよそ毎時間、ワークシートを用意し、思考を促すように課題を与えている。

原材料をはじめ、実物の教材などを使用し、五感や感性、興味や好奇心などを引き出すようにしている。映像資料は、可能な限り最新のものを使用し、共感や観察する力の基礎になる内容を選択している。各種資料は原著を用い、資料を丁寧に読みとる意義について触れるようにしている。

ピアノの経験者と非経験者の差が大きく出る科目である。非経験者には技術的に複雑でない曲、経験者にはそれ相応の曲を指定するなどしている。時間に余裕があれば、手首の位置や簡単にグランドピアノの構造を説明し、注意すべき左右のテクニックや音量の違い、聞こえてくる音のバランスの大切さについても説明するようにしている。

体験を通して納得し理解してもらえるように、できる範囲で実習・実験を取り入れて学んでいただけるように努力しています。学生さんたちは、私が思っていた以上にでき、やる気に満ちていて教え甲斐がありました。

講義だけでなく、個々の学生が資料をまとめたり、グループでの話し合いをした。授業の最初に5つほど問いを提示し答を書いてもらい、授業の中で正しい答がわかるような組み立てにした。

小学校の音楽の授業の中で一番多くの時間を占めるのは歌唱指導である。その教材に関しては、各教科書の出版社から指導書なるものが教員用にある。その指導書に掲載されている事をなぞっても仕方ないので、そこに書かれていない、しかし、是非、子供に教えてほしい内容を一人の学生に教員の役をしてもらい、他の学生は生徒となり、その課題の授業を進めながら私の専門分野から発声法、歌唱法の指導を中心に授業を進めた。

実技を中心に、ホワイトボードを多用して、現行学習指導要領の解説につながるような工夫をしている。実践を通じて、批評的な立場で授業の内容を振り返らせている。毎回のレポートにより、理解度をおおよそ把握しようとしている。レポートの内容は、次回の授業にできるだけ反映しようとしている。